

- ◆ 現行の第7次計画で目標として定める「生産基盤の強化」と「収益力の向上」をベースに、令和12年度を目標年度とする第8次計画では、酪農畜産業界全体を将来にわたって足腰が強く、地域コミュニティを維持する強固な産業とするべく、本道の酪農・肉用牛経営が外的要因にも影響されにくい「**経営体質の強化**」を目指すとともに、業界が一体となった「**生産体制の強化**」と「**需要の創出**」を進める。

1 酪農経営・生乳流通

〈酪農経営〉

- 地域コミュニティを維持するため、地域の实情に合った家族経営の継続・継承や協業法人の設立を推進
- 労働力不足に対応するため、スマート農業技術の活用やGAPの導入などによる省力化、地域営農支援システムの育成
- 性判別精液や和牛精液、ETの効果的活用による乳用後継牛の確保と個体販売による所得向上の両立
- 経営管理能力の向上のための人材育成の取組を推進
- こうした取組を通じて道内全体の乳牛頭数を確保し、生産力を強化することにより、生乳生産目標数量●万トンを目指す

〈生乳流通〉

- 乳業工場間の製造受委託や機能分担、集送乳の合理化、消費者ニーズに応じた商品開発など

2 肉用牛経営・食肉流通

〈肉用牛経営〉

- 生体需給の変動に左右されない経営を実現するため、一貫経営への誘導や地域内一貫体制を構築
- 酪農経営との連携による肉用牛資源の増頭
- 分娩間隔の高位平準化による繁殖雌牛の増頭、ゲノミック評価の活用による種雄牛の作出と優良繁殖雌牛群の造成を実現し、繁殖基盤を強化

- スマート農業技術の導入による飼養・繁殖管理の効率化を推進
- 品種の特徴を活かし、消費者ニーズに対応した消費拡大対策やブランド力の向上を推進

〈食肉流通〉

- 食肉処理施設の再編や稼働率の向上、輸出にも対応する衛生管理等の導入を推進

3 飼料生産

- 起伏修正等の「草地整備」や新たな草種・品種を導入する「草地改良」、植生の状況に応じた「草地更新」、スマート農業技術を活用した「草地管理」による良質な自給飼料の生産を確保

4 畜産環境

- 家畜排せつ物処理施設の整備の促進と堆肥の有効活用

5 家畜衛生

- 家畜伝染病の侵入及びまん延防止対策の実施、飼養衛生管理基準の遵守の徹底、海外悪性伝染病の侵入防止の強化
- 産業動物獣医師等の育成・確保の推進